
雑草紙

冷泉晃

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雑草紙

【Nコード】

N1266BA

【作者名】

冷泉晃

【あらすじ】

思ったことをテキストに書いていきます。基本かなり難解、意味不明な感じで……（作者は分かって書いています。これを読んでも、決して精神の病などのご心配なさらぬようお願いします…）

たとえば有り余る時間を持って余して。

画面、に向き合いつづけたとして。

それが現実じゆんとして眼前に現ることはなくて。

つづらな瞳を思い出す。

イヤ、ソナナ二眼八大キクナイ？

彼女ハ、

彼女？

2、3度あつただけの彼女。

それでもボク（僕ハ朴）は、彼女のウレシソウな顔が嬉しくて、

総体的、相対的忌避、緊急、回避セヨ？

？

それでも、僕は。

馬鹿ダ。馬鹿ダケレドモ。

心に沈む水紋みなもが攪拌、乱されて。

？

それでも僕は、昂く、熱くなって。

待ち人、来る。

恋愛、その人に祥さちあり。

液晶に波紋、「ワラエゴエ」。

「君の声が聴きたくて」

「ほんまに？」

ああ、（嗚呼＝嗟々）

僕は今恋をしている。

のか？

でも、彼女の嬉しそうな。

僕を見えた刹那まみの表情かお

イタズラに間隙から覗かせる。

少し目の細い それは、イイコトダ。

僕は彼女の、

声が聞きたい。

それだけで、

僕の恋慕を証明できてるか。

僕は画面、

見つめて、葛藤。

彼女へのキモチ。

混沌？

篤き、青き日常の一頁。

1 (後書き)

作者はこのような文章をわざと書いています。

これを読んでも、決して精神の病など、ご心配なさらぬようお願い
します；

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1266ba/>

雑草紙

2012年1月3日01時50分発行